

Canon

SPEEDLITE
430EX II



J

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

キヤノンスピードライト430EX II は、E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光システムに自動対応するEOS用多機能ストロボです。通常のクリップオンストロボ、ワイヤレススレーブストロボの2機能を併せ備えています。

● カメラの使用説明書もあわせてお読みください。

ご使用になる前に、この使用説明書とカメラの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

● 基本操作は通常のAE撮影同様、簡単です。

430EX II をEOSカメラに装着したとき、ストロボ撮影の自動露出制御のほぼすべては、装着したカメラによって行われます。

この仕組みは、ストロボ内蔵式カメラの場合なら、どなたでもご理解されると思いますが、430EX II 装着時も「内蔵ストロボの代わりにストロボが外付けされたもの」とお考えください。

● 各カメラの調光方式 (E-TTL II/E-TTL/TTL) に自動対応します。

装着したカメラのストロボ制御方式に従い、次の調光方式で自動制御されます。

- ① E-TTL II 自動調光 (プリ発光記憶式評価調光/レンズの距離情報活用を含む)
- ② E-TTL自動調光 (プリ発光記憶式評価調光)
- ③ TTL自動調光 (フィルム面反射測光のリアルタイム調光)

各カメラに装着したときの調光方式については、カメラの使用説明書を参照してください。主な仕様「外部ストロボ」の項目に明記されています。

なお、カメラの使用説明書では、便宜上、①②を**Aタイプカメラ** (注: E-TTL II あるいはE-TTL対応カメラ)、③を**Bタイプカメラ** (注: TTL対応) と表記しています。

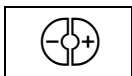
* 本書では、Aタイプカメラとの組み合わせを前提に説明しています。


Bタイプカメラとの組み合わせについては、37ページを参照してください。

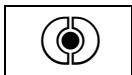
目次


1 使用前の準備と簡単な撮影.....	7
2 ストロボ撮影応用編.....	13
3 ワイヤレスストロボ撮影.....	25
資料.....	32



本使用説明書上のおことわり



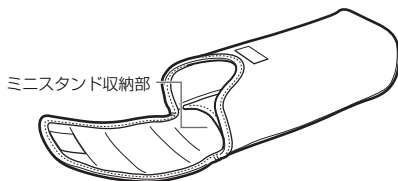
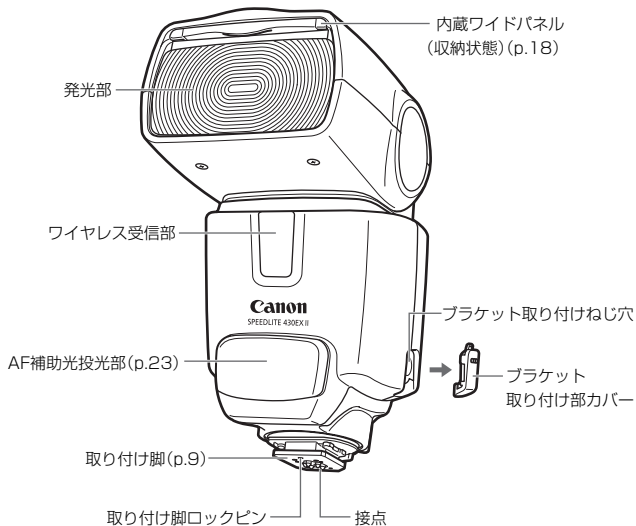
- 本文中の〈〉は+/-ボタンを示しています。



- 本文中の〈〉ボタンは選択/設定ボタンを示しています。

- この使用説明書では、カメラとストロボの電源スイッチが入っていることを前提に操作方法を説明しています。
- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやダイヤル、マークなど、ストロボやカメラ本体に表示されている絵文字を使用しています。
- (♻4) / (♻6) / (♻16) マークはボタンから指を離しても、その状態がタイマーにより4秒間/6秒間/16秒間保持されることを示しています。
- (p.**) の**部は参照ページを示しています。
- 本文中の以下のマークは、それぞれ次のような内容になっています。
 -  : 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
 -  : 基本操作に加えて知っておいていただきたい事項を記載していません。

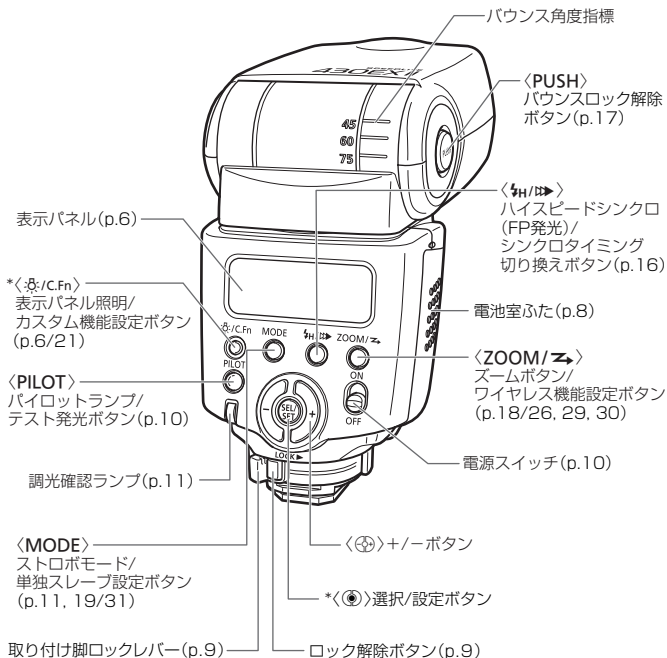
各部の名称




ケース

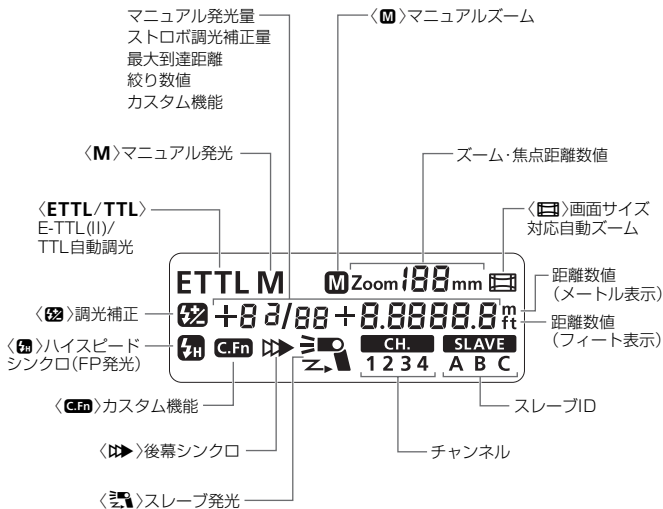


ミニスタンド



 * 印のボタンを押すと、ボタンから指を離してもその状態が8秒間保持されます。
 〈:Fn〉の照明は12秒間保持されます。

表示パネル



- 〈〉 ボタンを押すと、表示パネルが照明されます。
- 表示は状況に応じた部分のみ表示されます。

1

使用前の準備と 簡単な撮影

電池を入れる	8
カメラに取り付ける／取り外す	9
電源を入れる	10
全自動ストロボ撮影	11
撮影モード別E-TTL II/E-TTL自動調光撮影	12

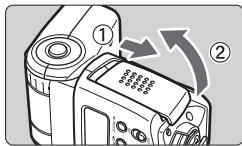


連続発光に関するご注意

- ストロボ発光部の発熱と劣化を防ぐため、連続発光は20回までとしてください。20回連続発光したときは、10分以上休止してください。
- 20回以上連続発光したあと、さらに、短時間に繰り返し発光を行った場合には、内部の発熱防止安全機能が働き、発光間隔が強制的に約8～20秒になることがあります。そのときは約15分休止すると、元の状態に戻ります。

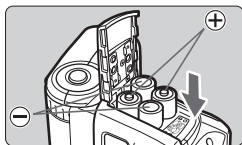
電池を入れる

電池は、単3形電池4本を使用します。



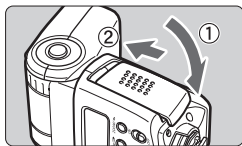
1 ふたを開ける

- 電池室ふたを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。



2 電池を入れる

- 表示にしたがって、「+」「-」をまちがえないように電池を入れます。



3 ふたを閉じる

- 電池室ふたを閉じて、矢印の方向にスライドさせます。

発光間隔と発光回数

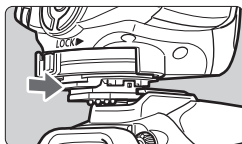
発光間隔 (約)	発光回数 (約)
0.1~3.0秒	200~1400

- 新品の単3形アルカリ乾電池使用、当社試験基準による数値です。

- アルカリ乾電池以外の単3形電池は、接点形状が規格で統一されていないものがあるため、電池の種類によっては、接触不良を起こす場合があります。
- 連続発光後に電池を交換する場合は、電池がかなり熱くなっていますので、ご注意ください。

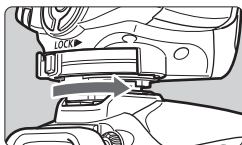
- 電池は4本とも新品で同一銘柄の電池を使用してください。電池の交換は4本同時に行ってください。
- 単3形のニッケル水素電池、リチウム電池も使用できます。

カメラに取り付ける／取り外す



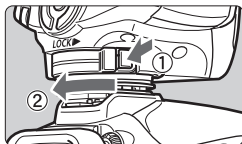
1 取り付ける

- ストロボの取り付け脚が、アクセサリースューの奥に突き当たるまで差し込みます。(取り付け脚の後ろ側は、アクセサリースューから、少しはみ出します)




2 固定する

- 取り付け脚ロックレバーを、右方向へスライドさせます。
➔ カチッと音がしてロックされます。

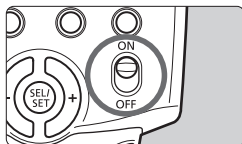


3 取り外す

- ロック解除ボタンを押しながら、取り付け脚ロックレバーを左方向にスライドさせて、カメラから外します。

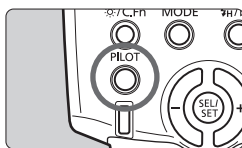
 ストロボの取り付け／取り外しは、必ずstroboの電源を切ってから行ってください。

電源を入れる



1 電源スイッチを〈ON〉にする

→ 充電を開始します。



2 充電を確認する

- パイロットランプの状態が、消灯→赤色（フル充電）に変わります。
- 〈PILOT〉ボタンを押すと、テスト発光します。

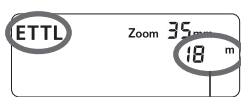
オートパワーオフ機能について

電池消費を防ぐため、一定時間（約1分半～15分）何も操作しないと、自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れるには、カメラのシャッターボタンを半押しします。また、〈PILOT〉ボタンを押すことでも可能です。

- テスト発光は、カメラの $\odot 4$ 、 $\odot 6$ タイマーが働いているときはできません。
- ストロボの設定状態は、電源を切っても記憶されています。電池交換時にも設定状態を保持したい場合は、電源スイッチを切った後、1分以内に電池を交換してください。

全自動ストロボ撮影

カメラの撮影モードを〈P〉(プログラムAE)、または〈□〉(全自動)にすると、〈P〉、〈□〉でのAE撮影と同じ操作で、「カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影」を行うことができます。



ストロボ光最大到達距離

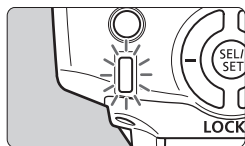
1 ストロボを〈ETTL〉に設定する

- 〈MODE〉ボタンを押して、〈ETTL〉を表示させます。
- シャッターボタンを半押しすると、ストロボ光の最大到達距離が表示されます。



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ➔ ファインダー内に、シャッター速度と絞り数値が設定されます。
- ファインダー内の〈⚡〉点灯を確認します。



3 撮影する

- ➔ シャッターボタンを全押しすると、ストロボが発光し、撮影されます。
- ➔ 標準露光で撮影が行われたときは、調光確認ランプ（緑色）が約3秒間点灯します。

表示パネルの焦点距離表示が点滅したときは、撮影画面の周辺が暗くなります。内蔵ワイドパネルをご使用ください。(p.18)

- E-TTL II 対応のカメラに取り付けた場合でも、表示パネルには〈ETTL〉と表示されます。
- 調光確認ランプが点灯しなかったときは、被写体に近づいて再度撮影します。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。

撮影モード別 E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影 ■

カメラの撮影モードを〈Tv〉(シャッター優先AE)、〈Av〉(絞り優先AE)、〈M〉(マニュアル露出)、に設定するだけで、それぞれの撮影モードに応じたE-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

Tv	<p>任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。 設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で標準露出となる絞り数値が自動設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 絞り数値が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。絞り数値が点灯するよう設定を変更してください。
Av	<p>任意の絞り数値を設定したいときに選択します。 設定した絞り数値に対し、カメラの測光で標準露出となるシャッター速度が自動設定されます。</p> <p>夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も標準露出となる、スローシンクロ撮影になります。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で標準露出となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 暗い場所では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。 ● シャッター速度が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。シャッター速度が点灯するよう設定を変更してください。
M	<p>シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。 主被写体は、ストロボ光で標準露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。</p>

- 〈DEP〉〈A-DEP〉で撮影すると、〈P〉(プログラムAE)によるストロボ撮影と同じ結果になります。




撮影モード別ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

	シャッター速度の設定	絞り数値の設定
P	自動設定 (1/X~1/60秒)	自動
Tv	手動設定 (1/X~30秒)	自動
Av	自動設定 (1/X~30秒)	手動
M	手動設定 (1/X~30秒、Bulb)	手動

- 1/X秒は、各カメラのストロボ同調最高シャッター速度です。

2

ストロボ撮影応用編

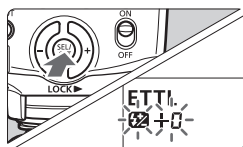
 調光補正 (応用)	14
FEL : FEロック (応用)	15
 ハイスピードシンクロ撮影 (応用)	16
 後幕シンクロ撮影 (応用)	16
バウンス	17
ZOOM : 照射角の設定 (応用) とワイドパネル	18
M : マニュアル発光 (応用)	19
C.Fn : カスタム機能で変更できる内容 (応用)	21
画面サイズ自動対応ズームについて	23
色温度情報通信について	23
AF補助光について	23
カメラのメニュー画面からのストロボ制御 (応用)	24





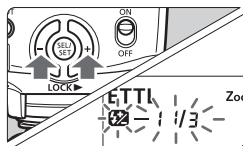
応用マークのついた機能は、かんたん撮影ゾーンでは使用できません。

調光補正


露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段の範囲です。(カメラの露出設定が1/2段ステップの場合は1/2段ステップ)

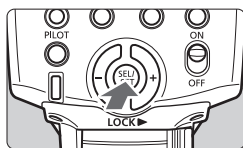



- 1  と補正量が点滅するまで  ボタンを押す




- 2 補正量を設定する



-  ボタンを押して補正量を設定します。
- 調光補正を解除するときは補正量を「+0」に戻します。



- 3  ボタンを押す
→ 調光補正が設定されます。

 ストロボとカメラの両方で調光補正を行った場合は、ストロボ側の設定が優先されます。

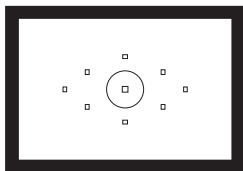
による操作

各種設定値を選択するときには使用します。 (+側) を押すと増加方向、 (-側) を押すと減少方向に数値が変化します。

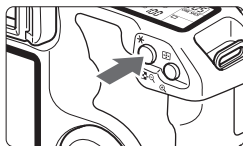
FEL: FE ロック

FE (Flash Exposure)ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

表示パネルに〈ETTL〉が表示されている状態で、カメラの〈FEL〉ボタンを押して行います。〈FEL〉ボタンのないカメラは〈*〉ボタンを押します。



1 被写体にピントを合わせる



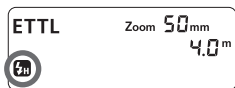
2 〈FEL〉ボタンを押す (Ⓔ16)

- 被写体をファインダー中央において〈FEL〉ボタンを押します。
- ➔ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な露光量を記憶します。
- ➔ ファインダー内に「FEL」が0.5秒間表示されます。
- 〈FEL〉ボタンを押すたびにプリ発光し、そのとき必要な露光量を記憶します。

- 被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときは、ファインダー内の〈⚡〉が点滅します。被写体に近づいて再度FEロックを行います。
- 表示パネルに〈ETTL〉が表示されていない状態では、FEロックできません。
- ファインダー視野に対して被写体が小さいと、FEロックの効果が得られない場合があります。

高速シンクロ撮影

高速シンクロ（FP発光）を使用すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。特に日中シンクロによるポートレート撮影を、絞り優先で行いたいときに有効です。



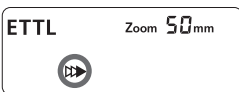
〈高速シンクロ〉ボタンを押して、〈高速シンクロ〉を表示させる

- ファインダー内で〈高速シンクロ〉の点灯を確認します。

- シャッター速度をストロボ同調最高シャッター速度以下に設定した場合は、ファインダー内に〈高速シンクロ〉は表示されません。
- 高速シンクロ撮影では、シャッター速度が高速になるほどストロボ光の到達距離が短くなります。最大到達距離は、そのつど表示パネルで確認してください。
- 通常の発光に戻すときは、〈高速シンクロ〉ボタンを押して〈高速シンクロ〉を消します。

後幕シンクロ撮影

低速シャッター速度設定時に光源の軌跡を写し込むときに有効です。シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。



〈後幕シンクロ〉ボタンを押して、〈後幕シンクロ〉を表示させる

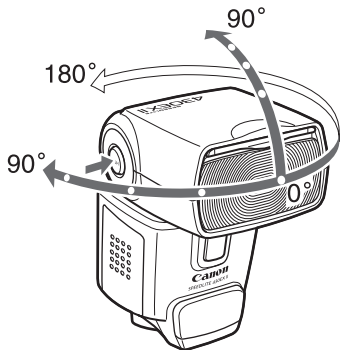
- カメラの撮影モードを「buLb」にすると後幕シンクロ撮影しやすくなります。
- 通常の発光に戻すときは〈後幕シンクロ〉ボタンを押して〈後幕シンクロ〉を消します。
- E-TTL II/E-TTL撮影時は、シャッターボタンを全押しした直後にストロボがプリ発光し、シャッターが閉じる直前にもう一度発光します。

バウンス

ストロボ発光部を壁や天井に向けて発光させ、その反射光を利用して撮影すると、被写体背後の影が緩和されて、より自然な感じになります。これをバウンス撮影といいます。

発光部の向きを決める

- 〈PUSH〉ボタンを押しながら発光部を回転させます。
照射角を自動設定にしていると、照射角50mmに固定されます。
また、表示パネルには〈Zoom - -mm〉が表示されます。
- 照射角は手動でも設定できます。(p.18)



- バウンスさせる壁や天井までの距離が離れていると、反射光が届かずに光量不足になることがあります。
- バウンスさせる壁や天井は無地の白に近い色をした、反射率の高いものを選んでください。反射面に色がついていると、撮影結果がその色の影響を受けます。
- 撮影後、調光確認ランプが点灯しないときは、より小さな絞り数値を設定して（絞りを開いて）再度撮影してください。デジタルカメラではISO感度を上げる方法もあります。


ZOOM: 照射角の設定とワイドパネル

撮影レンズの焦点距離に応じて、24~105mmの範囲で照射角を設定できます。設定方法には、自動設定と手動設定があります。また、内蔵のワイドパネルを併用すると、14mm相当のレンズ有効撮影画角に対応することができます。

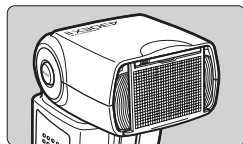
ETTL **M** Zoom 24mm

〈ZOOM/➤〉ボタンを押す

- 〈**+**〉ボタンを押すと照射角が変わりません。
- 〈**M**〉が表示されていない状態が自動設定です。


 照射角を手動設定するときは、できあがった写真の周辺が暗くならないよう、撮影画角よりも広い照射角を設定します。


ワイドパネルの使用



ワイドパネルを引き出して図のようにセットします。

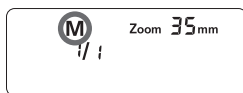
- 〈ZOOM/➤〉ボタンは機能しません。

 ● EF15mm F2.8フィッシュアイレンズの画角には、対応していません。
● レンズの有効撮影画角については、カメラ本体使用説明書をご覧ください。

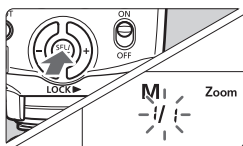
 ● ワイドパネルをセットした状態でバウンス撮影を行うと、バウンス光と直射光がともに照射されて不自然な写真になるため、表示パネルの表示が点滅して警告します。
● ワイドパネルを強い力で引き出さないでください。ワイドパネルがストロボ本体から外れるおそれがあります。

M: マニュアル発光

フル発光 (1/1) から1/64発光まで、発光量を1/3段ステップで設定することが可能です。市販のフラッシュメーターを使用して発光量を決めると、正確な露出を得ることができます。カメラの撮影モードを〈Av〉または〈M〉に設定することをおすすめします。

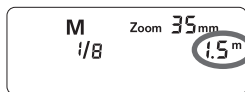


1 〈MODE〉ボタンを押して、〈M〉を表示させる



2 発光量を設定する

- 〈〉ボタンを押します。
→ 発光量が点滅します。
- 〈〉ボタンを押して発光量を設定し、〈〉ボタンを押します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影距離の目安が表示されます。



発光量の数値表示について

マニュアル発光量の数値表示は、減らしていく場合と増やしていく場合で、下記の表のように異なります。

(例) 発光量を減らしたときの数値→

1/1	1/1 -0.3	1/1 -0.7	1/2	1/2 -0.3	1/2 -0.7	1/4	...
	1/2 +0.7	1/2 +0.3		1/4 +0.7	1/4 +0.3		...

←発光量を増やしたときの数値

ストロボメータードマニュアル撮影について

EOS-1Dシリーズカメラ装着時に、手動で調光レベルを決めて撮影することができます。

1 カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈Av〉または〈M〉に設定することをおすすめします。
- ストロボの発光モードを〈M〉（マニュアル発光）に設定します。

2 ピントを合わせる

- 手動で被写体にピントを合わせます。

3 18%標準反射板をセットする

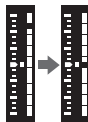
- 標準反射板を被写体の位置におきます。
- ファインダー内の中央部スポット範囲の領域全体に、標準反射板がくるようにします。

4 〈FEL〉 ボタンを押す (Ⓔ16)

- ストロボがプリ発光し、適正調光に必要な発光量が記憶されます。
- ファインダー内右側の露出レベル表示に、適正調光に対する調光レベルが表示されます。

5 調光レベルを設定する

- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量とカメラの絞り数値を設定します。



6 撮影する

- 標準反射板を、取り除いて撮影します。

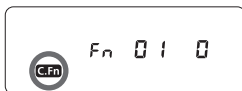
C.Fn: カスタム機能で変更できる内容

撮影スタイルに応じて、ストロボの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

カスタム機能番号	項目	設定番号	設定・変更内容	参照ページ	
C.Fn-00	距離表示	0	メートル (m) 表示	-	
		1	フィート (ft) 表示		
C.Fn-01	オートパワーオフ	0	入	p.10	
		1	切		
C.Fn-02	モデリング発光	0	する：絞り込みボタン	p.30	
		1	する：テスト発光ボタン		
		2	両方のボタンで発光する		
		3	しない		
C.Fn-07	自動調光時のテスト発光	0	1/32発光	-	
		1	フル発光		
C.Fn-08	AF補助光の投光	0	する	p.23	
		1	しない		
C.Fn-09	画面サイズ対応自動ズーム	0	する	p.23	
		1	しない		
C.Fn-10	スリープのオートパワーオフ時間	0	60分	p.28	
		1	10分		
C.Fn-11	スリープのオートパワーオフ解除	0	8時間以内		
		1	1時間以内		
C.Fn-14	調光連動情報	0	最大到達距離表示	p.11	
		1	絞り数値表示		

- C.Fn-02-1, 3 : 絞り込みボタンで被写界深度確認を行いたいときに有効です。
- C.Fn-08 : ストロボ、カメラのいずれかがAF補助光の投光をしない設定になっている場合は、AF補助光は投光されません。
- C.Fn-14 : シャッターボタンを半押ししたときに、表示パネルに表示される情報を切り換えることができます。Aタイプカメラのみ可能です。

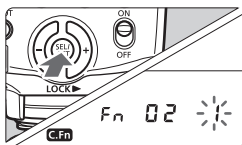
カスタム機能の設定方法



- 1 <⊕/C.Fn> ボタンを2秒以上押して
<C.Fn> を表示する

2 カスタム機能番号を選択する

- <⊕> ボタンを押してカスタム機能番号を選択します。



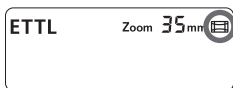
3 設定を変更する

- <⊙> ボタンを押します。
→ 設定番号が点滅します。
- <⊕> ボタンを押して希望する設定番号を選び、<⊙> ボタンを押します。
- 設定終了後、<MODE> ボタンを押すと撮影準備状態に戻ります。


画面サイズ自動対応ズームについて

EOS デジタルカメラには、3種類の画面サイズがあり、装着したレンズの有効撮影画角は、それぞれの機種で異なります。本機では、各EOS デジタルカメラの画面サイズを自動認識して、24～105mmの範囲でレンズ有効撮影画角に最適な照射角を自動設定します。

対応カメラ装着時には、表示パネル上に〈〉が表示されます。



色温度情報通信について

ストロボ発光時の色温度情報をEOS デジタルカメラに伝えることで、ストロボ撮影時のホワイトバランスを最適にする機能です。カメラのホワイトバランスが、〈AWB〉、〈〉のときに、自動的に働きます。

対象機種については、カメラ使用説明書の主な仕様をご覧ください。

AF補助光について

被写体が暗すぎたり、コントラストが低く、AFでピントが合わないときは、内蔵されたAF補助光が自動的に光り、AFでピントを合わせやすくします。430EX II のAF補助光はほぼすべてのEOSカメラのAFフレームに対応しています。AF補助光の対応画角は焦点距離28mm以上で、有効距離は下表のとおりです。

位置	有効距離 (m)
中央	0.7～10
周辺	0.7～5

カメラのメニュー画面からのストロボ制御

外部ストロボ制御機能に対応したEOSデジタルカメラに装着したときは、カメラ本体から設定が可能です。

●ストロボ機能設定

調光方式や、発光モードによって設定できる内容が変わります。

- ・発光モード
- ・シンクロ設定（先幕/後幕/ハイスピード）
- ・調光補正
- ・調光方式
- ・ストロボの発光
- ・ズーム（照射角の設定）
- ・ストロボ設定初期化

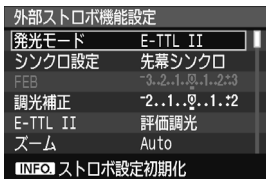
●ストロボカスタム機能設定

- ・9種類

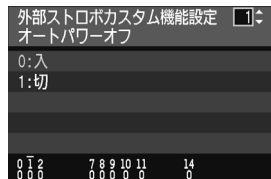
●ストロボカスタム機能一括解除

C.Fn-00は解除されません。

ストロボ機能設定画面*



ストロボカスタム機能設定画面*



* 画面は、カメラによって異なる場合があります。

⚠ ストロボ側で調光補正が設定されている場合は、カメラ側で調光補正を設定することはできません。

📄 調光補正以外のストロボ機能設定、ストロボカスタム機能設定は、ストロボとカメラのどちらかで設定が行われた場合、最後に行われた設定が有効となります。

3

ワイヤレスストロボ撮影

ワイヤレスストロボ撮影を行うためには、別途、マスターストロボ機能を備えたスピードライト580EX II が必要です。

ワイヤレスストロボ撮影	26
スレーブで設定するマニュアル発光.....	31

資料

430EX II のシステム	32
故障かな？と考える前に.....	33
主な仕様	35
Bタイプカメラとの組み合わせ	37

ワイヤレスストロボ撮影

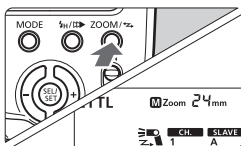
ワイヤレス多灯撮影機能を備えたキヤノン製スピードライトを併用すると、通常のE-TTL II 自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、高度なワイヤレス多灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

本システムでは、カメラに取り付けたマスターストロボの設定内容が、ワイヤレス制御されるストロボ（スレーブ）側にも自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にスレーブ側の操作は必要ありません。

ワイヤレス撮影の詳細および、マスターストロボの操作方法については、マスターストロボの使用説明書を参照してください。以降の説明では、カメラに取り付けたストロボを「マスター」、ワイヤレス制御されるストロボを「スレーブ」と呼びます。

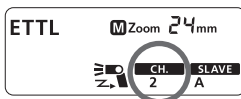
1 マスターの設定をする

- マスター機能を備えたストロボをカメラに取り付け、必要な設定をします。



2 430EX II をスレーブに設定する

- 〈ZOOM/ buttonを2秒以上押す。



3 通信チャンネルを確認する

- マスターとスレーブで異なるチャンネルが設定されているときは、同じチャンネルに設定します (p.29)。

4 スレーブIDを設定する

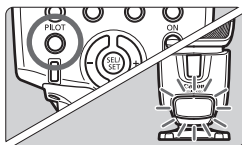
- 2グループ (A・B) または3グループ (A・B・C) 撮影を行うときに設定します (p.30)。

5 カメラとストロボを配置する

- スレーブをマスターの有効送信距離内に設置します。

6 マスターの発光モードを〈ETTL〉に設定する

- 撮影時に、スレーブも〈ETTL〉に自動設定されます。



7 充電を確認する

- スレーブの充電が完了すると、AF 補助光が1秒間隔で点滅します。

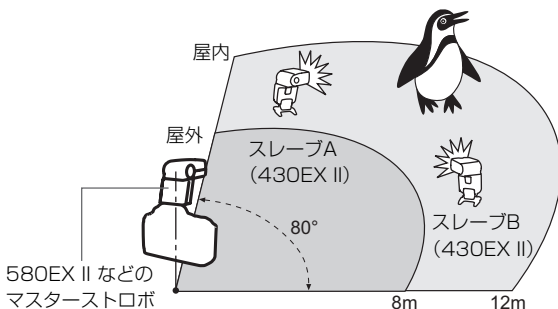
8 作動確認をする

- マスターのテスト発光ボタンを押します。
- ➔ スレーブが発光します。発光しないときは、配置角と距離をマスター寄りに変更します。


9 カメラの設定をして撮影する

- 通常のスโตรボ撮影と同じように、カメラを設定して撮影します。

ワイヤレス多灯撮影の例



- スレーブの配置には付属のミニスタンド（三脚ねじ穴付き）を利用します。
- 左右バウンス機能を利用し、スレーブの受信部をマスター側に向けます。
- 室内では壁面反射があるため、多少ラフな配置でも作動します。
- 配置後、撮影する前に必ずワイヤレス作動確認を行ってください。
- マスターとスレーブの間に障害物をおかないでください。送受信の妨げになります。

- 
- スレーブ設定にした複数のストロボを配置したときも、同じようにワイヤレス制御されます。
 - ストロボのズーム位置は24mmに自動設定されます。ズーム位置の変更は可能ですが、本システムでは、プリ発光を利用した光通信でスレーブを制御するためマスターのズーム位置を変更したときは、必ず作動確認を行ってください。
 - スレーブがオートパワーオフ状態になったときは、マスターをテスト発光するとスレーブの電源が入ります。
 - 430EX II はスレーブ設定時、オートパワーオフ状態で8時間以上たつと、マスターをテスト発光しても電源は入りません。その場合は、430EX II 側のテスト発光ボタンを押して電源を入れてください。
 - カメラの**4**、**6**タイマーが動いているときは、テスト発光できません。

全自動ワイヤレスストロボの応用撮影

本システムでは、マスターで設定した調光補正などの内容が、そのままスレーブに自動設定される仕組みになっています。スレーブ側の操作は必要ありません。以下のワイヤレスストロボ撮影を、通常のストロボ撮影と同じ操作で行うことができます。

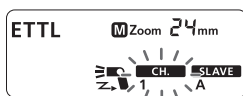
- ・ストロボ調光補正
- ・ハイスピードシンクロ（FP発光）
- ・FEロック
- ・FEB
- ・マニュアル発光
- ・マルチ発光撮影



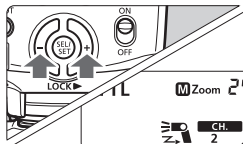
- FEロックでは、ストロボ1台でも露出不足になると、ファインダー内の（）が点滅します。絞りを開くか、スレーブを被写体に近づけてください。
- ワイヤレス撮影時、マスターで設定した内容は、430EX II の表示パネルには表示されません。

通信チャンネルの設定

他の人が使用しているキヤノン製ワイヤレス多灯システムと混信しないよう、チャンネルを切り換えることができます。チャンネルは、マスター、スレーブとも同じ番号を設定します。



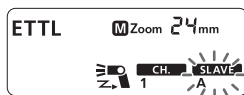
- 1 〈ZOOM/➡〉 ボタンを押して、〈CH. 1〉を点滅させる



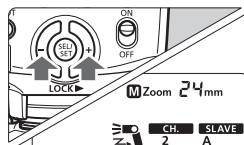
- 2 チャンネルを設定する
 - 〈〉 ボタンを押して番号を選んだ後、〈〉 ボタンを押します。

スレーブIDの設定

2グループ (A・B) または3グループ (A・B・C) 撮影をするときに設定します。



- 1 〈ZOOM/➤〉 ボタンを押して、
〈SLAVE〉 を点滅させる




- 2 IDを設定する
 - 〈SEL/SET〉 ボタンを押してID (A・B・C) を選んだ後、〈SEL/SET〉 ボタンを押します。

モデリング発光

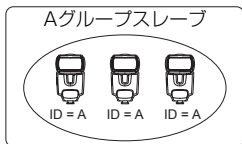
絞り込みボタンのあるカメラでは、絞り込みボタンを押すとストロボが1秒間連続発光します。これをモデリング発光といいます。

被写体の影の出かたや、ライティングのバランスを確認するときに使用します。モデリング発光はワイヤレスストロボ撮影だけではなく、通常のストロボ撮影時にも使用可能です。

- 1 モデリング発光は、連続10回までにしてください。発光部の発熱と劣化を防ぐため、10回発光したら、10分以上モデリング発光を行わないでください。

 EOS Kiss III/EOS Kiss III L、およびBタイプカメラ (p.2) は、モデリング発光ができません。

グループ制御について

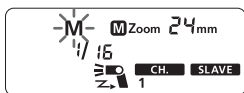


例えば、スレーブIDを〈A〉にした3つのスレーブがある場合は、3つを1灯のAグループスレーブとみなして制御します。

スレーブで設定するマニュアル発光

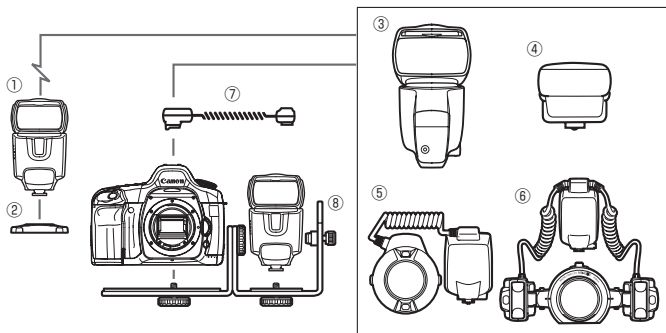
スレーブ側でマニュアル発光の手動設定（単独スレーブ）を行うことができます。次のような状況で利用します。

- (1) スタジオ用大型ストロボ同様、スレーブストロボ側で任意の光量を設定し、ワイヤレス・マニュアル発光撮影を行うとき。
- (2) ワイヤレストランスミッター ST-E2との組み合わせでワイヤレス・マニュアル撮影を行うとき。



- 〈MODE〉 ボタンを2秒以上押します。
- ➔ 〈M〉 が点滅します。
- マニュアル発光量を設定します。
(p.19)

430EX II のシステム



- ① スピードライト430EX II (スレーブ)
- ② ミニスタンド (430EX II 付属)
- ③ スピードライト580EX II (クリップオン/マスター)
- ④ スピードライトトランスミッター ST-E2
スレーブ設定された430EX II をワイヤレス制御するための専用送信機です。
- ⑤ マクロリングライトMR-14EX / ⑥ マクロツインライトMT-24EX
近接撮影用のマクロストロボです。
- ⑦ オフカメラシューコードOC-E3
430EX II をカメラから約60cmまで離して使用することができます。
- ⑧ スピードライトブラケットSB-E2

故障かな？と考える前に

「ストロボが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてチェックしてください。

ストロボが発光しない

- 電池が逆向きに入っている。
→ 電池を正しい向きに入れなおす。(p.8)
- ストロボ本体の電池が消耗している。
→ 30秒たってもフル充電にならないときは、電池を交換する。(p.8)
- ストロボがカメラにしっかりと取り付いていない。
→ ストロボの取り付け脚をカメラにしっかりと取り付けなおす。(p.9)
- ストロボとカメラの接点部分が汚れている。
→ 接点部分を清掃する。

スレーブが発光しない

- マスターと異なるチャンネルが設定されている。
→ マスターと同じチャンネルを設定する。(p.29)
- スレーブが正しく配置されていない。
→ マスターの通信範囲内に配置しなおす。(p.26)
- スレーブの受信部をマスターの方向に向ける。(p.26)

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフが働いた。
→ シャッターボタンを半押しするか、〈PILOT〉ボタンを押す。(p.10)

表示パネル全体が点滅する

- ワイドパネルを引き出した状態で、バウンス位置にしている。
→ パネルを収納する。(p.18)

照射角の自動設定が働かない

- カメラにストロボがしっかりと取り付いていない。
→ ストロボの取り付け脚をカメラにしっかりと取り付けなおす。(p.9)

写真の周辺、または下側が暗い

- 照射角を手動設定するときに、撮影時のレンズ焦点距離よりも大きい数値を設定した（写真の周辺が暗いとき）。
 - ➔ 撮影時のレンズ焦点距離よりも小さい数値を設定するか、照射角をオートズームに設定する。（p.18）
- 撮影距離が近すぎた（写真の下側が暗いとき）。
 - ➔ 0.7m以上離れて撮影する。

ストロボの露出がアンダー、またはオーバーになる

- 画面内に窓ガラスなど、反射率の高いものがあった。
 - ➔ FEロック撮影を行う。（p.15）
- 写真の色が極端に暗い、または明るい。
 - ➔ 調光補正を利用して、黒い被写体に対してはマイナス補正、白い被写体に対してはプラス補正を行う。（p.14）
- ハイスピードシンクロで撮影した。
 - ➔ ハイスピードシンクロは、連動距離が短くなるため、被写体を連動距離表示の範囲内において撮影する。（p.16）

写真が大きくブレている

- 撮影モードを〈Av〉にして、暗い場所で撮影した。
 - ➔ 三脚を使用するか、撮影モードを〈P〉にして撮影する。（p.12）

ボタン操作を受け付けない

- モードダイヤルが「かんたん撮影ゾーン」に設定されている。
 - ➔ モードダイヤルを「応用撮影ゾーン」に設定する。

主な仕様

■型式

型式	クリップオンタイプE-TTL II/E-TTL/TTL自動調光ストロボ
対応カメラ	EOS・Aタイプカメラ (E-TTL II/E-TTL自動調光) EOS・Bタイプカメラ (TTL自動調光)
ガイドナンバー	43 (照射角105mmに設定 ISO100・m)
照射角	24~105mm (ワイドパネル使用時14mm) ・オートズーム (レンズ焦点距離と画面サイズに応じて照射角自動設定) ・マニュアルズーム ・発光部回転 (バウンス撮影)
色温度情報通信	発光時のストロボ色温度情報をカメラに送信

■露出制御

露出制御方式	E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光、マニュアル発光
調光連動範囲	0.7~24.3m (EF50mm F1.4 *ハイスピードシンクロ: 0.7~12m (1/250秒時) レンズ使用時・ISO100)
調光補正	1/3段または1/2段ステップ±3段
FEロック	可能
ハイスピードシンクロ	可能
調光確認	調光確認ランプ点灯

■ストロボ充電

充電時間	通常発光: 約3.0秒 (単3形アルカリ乾電池使用時)
充電完了表示	パイロットランプ赤色点灯

■ワイヤレススレーブ機能

通信方式	光パルス
チャンネル数	4
受信角	マスターに対して、左右約±40°、上下約±30°
スレーブ充電完了表示	AF補助光点滅
モデリング発光	カメラの絞り込みボタンによる

■カスタム機能

9種類・20項目

■AF補助光

対応AF..... 1～9点AFに対応（レンズ焦点距離28mm以上）
有効距離..... 中央：約0.7～10m、周辺：約0.7～5m

■電源

使用電池..... 単3形アルカリ乾電池 4本
* 単3形ニッケル水素電池、リチウム電池使用可能
発光回数..... 約200～1400回（単3形アルカリ乾電池使用時）
節電機能..... 約1分半～15分放置で電源OFF（スレープ設定時60分）

■大きさ..... 72（幅）×122（高さ）×101（奥行）mm

■質量..... 約320g（ストロボ本体のみ、電池別）

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

マニュアル発光のガイドナンバー（ISO100・m）

発光量	照射角（mm）							
	14	24	28	35	50	70	80	105
1/1	11	25	27	31	34	37	40	43
1/2	7.8	17.7	19.1	21.9	24	26.2	28.3	30.4
1/4	5.5	12.5	13.5	15.5	17	18.5	20	21.5
1/8	3.9	8.8	9.5	11	12	13.1	14.1	15.2
1/16	2.8	6.3	6.8	7.8	8.5	9.3	10	10.8
1/32	1.9	4.4	4.8	5.5	6	6.5	7.1	7.6
1/64	1.4	3.1	3.4	3.9	4.3	4.6	5	5.4

Bタイプカメラとの組み合わせ

430EX II とBタイプカメラ（TTL自動調光に対応したEOSカメラ）を組み合わせたときに、使用できる機能と使用できない機能について記載しています。

お使いのカメラがBタイプカメラの場合、430EX II を自動調光で使用すると、ストロボの表示パネルに〈TTL〉と表示されます。

Bタイプカメラで使用できる機能

- TTL自動調光
- ストロボ調光補正
- マニュアル発光
- 後幕シンクロ
- ワイヤレスストロボ撮影のマニュアル発光とマルチ発光

Bタイプカメラで使用できない機能

- E-TTL II/E-TTL自動調光
- FEロック
- ハイスピードシンクロ（FP発光）
- ワイヤレスストロボ撮影の自動調光と光量比設定

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と、期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理受付窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。



キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90001

受付時間：平日 9：00～20：00

土・日・祝日 10：00～17：00

（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

- ※ 上記番号をご利用いただけない方は、03-3455-9353をご利用ください。
- ※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
- ※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2008年5月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。